

愛知山労

愛知県勤労者山岳連盟
機関紙

2011年6月24日発行

No. 464 (第43期04号)

〒454-0055

名古屋市中川区十番町2-8 栄和産業(株)ビル2F

TEL/FAX 052-654-1210

<http://aichirousan.web.fc2.com/>



第39回鈴鹿山系清掃登山山頂集会／(6月5日御在所岳朝陽台にて)

《目次》

巻頭言	「清掃登山」という「運動」について	2
組織部	一般向け登山講座「登山の基本、教えます」 盛況のうちに終了。7割が20～40代！	3
自然保護部	第39回鈴鹿山系清掃登山 お疲れ様でした！	5
婦人部	第3回女性のつどい 講演：『事故事例に学ぶ』	6
教育部	6/3 第2回教育担当者会議を開催しました	8
遭対部	無雪期救助訓練(机上講座)を行いました 他	
スケジュール		12

巻頭言

「清掃登山」という「運動」について

理事長 洞井孝雄

御在所岳・藤原岳で実施された第39回鈴鹿山系清掃登山が終わりました。

例年より早い梅雨で当日の天候が心配されましたが、幸いに好天に恵まれ、多くの皆さんの参加により、両山域で700名を超える参加者を集めて成功させることができました。お疲れさまでした。

今回は、御在所岳の登山道の崩壊により登下山ルートが限られたこと、一般参加者についてもこれまでの「賛同署名」のあり方を見直し、登山口や山頂で参加を呼びかけ、それに応えてくれる人たちをカウントする方式をとったこと、自治体の協力共同の関係が後退しつつあることなど、若干の負の要素がありましたが、朝陽台には、そうした状況を跳ね返すほどの多くの仲間たちが集りました。

一般参加者への働きかけのあり方については、先月のこの欄で述べました。

自治体との協力共同の関係については、具体的には、「これまでの資材提供をやめたい」という申し出が昨年から出されており、昨年は協議の結果、例年通りとなりましたが、今年は「削減」という回答が返ってきました。

清掃登山の本番前に、三重県連の代表とともに、町を訪問し、この点についての協議をおこないました。

資材提供廃止は、「町では、地域住民が自分たちの居住区域で清掃活動をおこなっているが資材提供はしていない。住民たちは自分たちで軍手やゴミ袋を用意している。清掃登山だけ資材を提供するのは不公平である」という理由からです。

私たちは「地域の住民が日常的な自分たちの生活の場を清掃することと、多くの登山者に呼びかけて自然保護を訴えてきた清掃登山の運動とは意味や次元が違うと考えている。40年にわたって続けてきた私たちの取り組みが、それを応援することで、山域を管轄する自治体の責任を果たすことにもなり、観光資源としての価値を高める役割をも果たしてきたと自負している。そういう協力協同の関係を作ってきたことをどう考えているか」という問いかけをしました。

自治体は、「かつての量から言えば本当に山のゴミが少なくなった、このことはこれまでの清掃登山のおかげだと評価している」と述べつつも、「来年以降、軍手、ゴミ袋の提供はやめたい」という返答に終始しました。

私たちは、清掃登山の意義について、繰り返し述べ、「かつて、町が観光協会と一緒に、呼びかけや名前を刷り込んだゴミ袋を作って提供してもらった経験や、町の自然保護の今後の方向についても、“山岳団体として提案をお願いしたい」という回答が出されたほどに積極的な取り組みや連携が構築されてきたにもかかわらず、そうした関係が後退しつつあると感じている。来年以降もそうした目に見えるかたちでの協力は、自治体のためにも必要である」ことを強調しました。

第39回鈴鹿山系清掃登山は終わりましたが、「清掃登山」という運動の意味が本当に理解されているかどうか、きちんと点検と総括をする時期にきているようです。

組織部

一般向け登山講座「登山の基本、教えます」 盛況のうちに終了。7割が20～40代！



実技②の下山時、記念にパチリ(6月11日 八ヶ岳・編笠山雲海付近)

4月19日(火)から開講していた県連の一般向け登山講座「登山の基本・教えます」が、6月14日(火)の第6回理論講座「まとめ—長く登山を続けるために—」で終了しました。受講者は30名。今年を受講者のうちわけは20代5人、30代11人、40代7人、50代3人、60代3人、70代1人と7割以上を20代から40代のひとたちが占め、中でも30代が三分の一を占めたことが特徴的でした。

講座は「山に入る姿勢と計画」「山の装備と食糧の実際」「地形図の読み方・使い方」、「歩く技術とパーティー行動の基本」「山の天気」そして「まとめ」の机上講座と「まず、山に登ってみよう」「講座で学んだことを生かして登る」をテーマに、鈴鹿・入道岳と八ッ・編笠山での実技登山で構成され、理論講座では9割、実技講座では8割ほどの出席者で盛況でした。実技は、一回目は好天に恵まれたものの、東名阪での事故渋滞によって、滝ガ谷ルートの下山を椿大神社経由に変更、二回目は出発時に雨は上がったものの時間切れで押手川の上で引き返しましたが、それぞれにテーマとした課題は達成できたようです。

受講者の多くは全くの登山初心者ではなく、これまで個人的に山歩きをしていて、基本的な知識を学びたいという要求や、一人歩きでは限界があると考えたところに、講座が開かれることを知った、という人が多かったのも特徴的でした。

講座の最後に寄せられたレポートでは、「当初の期待以上の内容だった」「仲間と一緒に歩く楽しさを知った」「これまでの自分の登山を考えさせられた」など、ほとんどから嬉しい評価をもらうことになりました。多くの仲間たちが、スタッフとして、受講者を迎え入れる雰囲気を作り、接してくれたおかげかもしれません。一方で、登山の楽しさやいい面

ばかりではなく、厳しさや怖さ、気をつける必要のあることはなにか、など、伝えるべきことは明確に伝えた結果でもあると思います。

昨年の講座の反省点として、「愛知県連がいかに外部の不特定多数のひとたちに何かを呼び掛ける手段を持っていなかったかを知らされた」ことがあげられましたが、今年は、各山岳雑誌、新聞、いろいろなWEBサイト、加盟山岳会の一斉要項掲出、など考えられる広報活動を展開したこともこうした受講者を集める大きな手段になったといえます。講座が始まってからも何件かの問い合わせがあり、理論講座だけを聴講してもらった人たちもありました。確実に、「学びたい」と思っているひとたちは増えているようです。これからの登山講座のあり方についても考えて行かなければなりません。(洞井)

第43期5月末会員数一覧

80名に迫る会も。機会をとらえて、多くの仲間を迎え入れましょう!

山 岳 会	2011年2月末			4月末			5月末			増減
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
あつた勤労者山岳会	48	26	74	49	26	75	52	29	81	
アリス山の会	3	4	7	3	4	7	3	4	7	
おやこ山の会	3	6	9	3	6	9				
春日井峠の会	25	16	41	23	16	39				
かわせみ山楽会	6	3	9	5	3	8	5	3	8	
犬山勤労者山の会マップ	25	38	63	25	38	63				
じねんじょ山の会	17	19	36	19	19	38	18	19	37	
昭和山岳会(4月末脱退)	10	14	24	—	—	—				
スルジェ山の会	16	16	32	16	16	32	16	16	32	
中央アルパインクラブ										
ちんぐるま	4	3	7	4	3	7				
東海山岳会	26	4	30	26	4	30	27	4	31	
名古屋ありんこ山岳会	14	7	21	12	6	18	12	6	18	
名古屋ASC	19	20	39	19	20	39	20	19	39	
名古屋山岳同志会	28	16	44	28	20	48	26	21	47	
名古屋山歩会	17	8	25	17	8	25	16	8	24	
半田ファミリー山の会	31	44	75	33	44	77	33	44	77	
東三河山ぼ会	86	84	170	86	78	164	86	79	165	
低い山を楽しむ会	10	6	16	10	6	16	10	6	16	
ふわく山の会	149	164	313	146	162	308				
みどり山の会	8	18	26	6	16	22	7	16	23	
山の会くらら	43	19	62	45	18	63	47	19	66	
若駒山岳会	10	3	13	10	3	13	10	3	13	
計			1136							

自然保護部

第39回鈴鹿山系清掃登山

お疲れ様でした！

参加者767人（御在所岳621人 藤原岳154人） ゴミ336.8kg

6月5日(日)、御在所岳と藤原岳で実施された第39回鈴鹿山系清掃登山は成功裏に終えることができました。参加者は両山域合せて767人の参加、収集したゴミは336.8kgでした(内訳は下表参照)。参加者はそれぞれのコースから山頂を目指し、御在所岳は朝陽台広場、藤原岳は藤原山荘前でそれぞれ12時半から山頂集会を行い、愛知・三重両県連盟の代表の挨拶のあと、後援をいただいた三重県、いなべ市、菰野町各首長からのメッセージを紹介しました。御在所岳では菰野町長が参加、挨拶をいただき、各山頂にて「山頂集会アピール」拍手で採択しました。

山頂集会のあと、それぞれのコースを下山しながら清掃を行い、下山後ゴミの計量とまとめの集会を行い散会しました。

今年は、一般参加の呼びかけを主に登山口にて行い、一般参加の登山者にはゴミを集めながら山頂の受付に持ってきてもらいました。これに登山者などもより実質的な参加を得ることとなりました。また、御在所岳のスカイライン沿いの粗大ゴミは町に連絡し回収してもらうこととしました。今後とも地元自治体などとの連携を強めて清掃登山を実施していきます。

6月5日(日)第39回鈴鹿山系清掃登山 山域別集計

	参加人数(人)			ゴミ収集量(Kg)		
	会員	一般	計	可燃物	不燃物	計
御在所岳	415	206	621	76.8	226.4	303.2
藤原岳	131	15	146	5.1	28.5	33.6
計	546	221	767	81.9	254.9	336.8

秋の各会合同清掃登山は、下表の様に各会で計画され、それぞれの山域で自治体との協議が始まっています。未だ山域などが決まっていない会は、下表山域への参加も含めて、是非、秋の各会合同清掃登山に参加を呼びかけます。

第43期 2011年秋の各会合同清掃登山 実施予定(計12山岳会)

	幹事	山岳会	山域	日程
①	◎	じねんじょ山の会 名古屋山岳同志会	定光寺	9月11日
②		半田ファミリー山の会	武豊自然公園	10月16日
③		ふわく山の会 犬山勤労者山の会マップ	継鹿尾山・栗栖山 (山域協議中)”	9月25日

④	あつた勤労者山岳会 山の会「くらら」	海上の森～赤猿峠	10月2日
⑤	みどり山の会	(未定)	10月9日
⑥	東三河山ぽ会	(未定)	
⑦	犬山勤労者山の会マップ	尾張三山	10月2日
⑧	春日井峠の会 スルジェ山の会	弥勒山・道樹山	10月23日

婦人部

第3回女性のつどい

講演：『事故事例に学ぶ』（講師：洞井孝雄県連理事長）

6月16日、「第3回女性のつどい」が県連事務所で開かれました。この日は洞井県連理事長に、「事故事例に学ぶ」をテーマとしたお話を聞きました。

【参加者】ASC2名、あつた4名、アリス1名、春日井峠3名、じねんじょ1名、半田ファミリー1名、東三河1名、ふわく5名、みどり6名、くらら1名(10山岳会 25名 内男性2名)

まず、理事長自身の過去二回の事故から、おごりやちょっとした気の迷いが要因になりうること、ケガや痛みだけではなく、精神的にも大きなダメージを受け、それまで積み上げてきたものが一瞬に崩れる経験をしたことが話され、事故は絶対に起こしてはならないことが強調されました。

次に「山岳遭難の現状と課題」（青山千彰『世界』岩波書店2010429）から抜粋された資料に基づいて、登山界の現状と事故の実態について触れ、

登山人口は減少しているが、事故は増加傾向にある。増加要因は①高齢化 ②携帯電話の利用拡大により山岳地域でも通話可能 ③未組織者 ④不十分な対策 ⑤変化する登山形態と意識などが挙げられる。

高齢化する遭難事故者の男女別では、女性が50歳代で急速に増加。事故は道迷いが大多数、午後2時に多発、登山行程を4つに分けると3/4行程で最も多い。事故はリスクの高い条件よりもリスクの低い登山道でのスリップや転倒などが圧倒的に多い。高齢者は慎重な行動で高いリスクを回避しようとするが、安全圏に入ると一気に気を緩めてしまうことで事故が起きやすくなる等々…。

その上で、足元の愛知県連ではどうか、たとえば、41期に報告された事故は50歳代の骨折が多い、など最近の事故の傾向についても分析報告されました。

また、遭対基金(新特別基金)についても触れられ、そもそも遭対基金は、万一事故が起きた際にかかる費用は膨大で、残された人たちの負担が非常に大きいことから、捜索・救助にかかった費用負担を軽減しようということで生まれた助け合い制度、共済制度であること、一般に言われている「保険」とは違うことや、新保険業法からの「適用除外」を求める取り組み、現在の「新特別基金」の仕組みなどについても説明されました。その中では【遭対基金加入や交付金申請の手順】についても説明がされました。(①年度はじめに「交付金」の申請の意思表示⇒②各山岳会の担当者はその申請された意思表示に基づいて全国

連盟に一覧を送付⇒③事故が起きたら30日以内に「事故一報」を遭対基金管理委員会へ⇒④基金管理委員会から送られてくる給付申請書に記入⇒必要書類添付の上、県連代表者の「事故確認」署名・捺印。事故アンケートのコピー提出⇒⑤年度末の切り替えの時点で、各会から提出したリストに基づいて寄付金を振り込む)その一方で、遭対基金の申請の有無にかかわらず、事故がおきたらかならず県連遭対部へ一報を入れ、後日、計画書および事故報告書を提出する、という愛知県連のルールについても強調されました。

女性のつどい講座「事故事例に学ぶ」アンケート

***講演の感想**

- ・無事に下山出来たからと言って、安心するものでもなく、振り返って、ルート：山行を検証していく事も重要。その為に報告書等も大切なことだと感じました。
- ・事故を予防していかなければいけないと、講演の中で改めて感じました。
- ・安全登山を心がけて、細く長く山とかかわっていこうと思います。
- ・事故事例も含め、わかりやすく話してくださいました。
- ・事故は自分にはあまり関係がないことのように思っていたのですが、身近なところで起きていて、自分に関係しているということがよくわかった。
- ・リスクが高い≠重大な事故を起こしやすい。事故が起きる状況、そのイメージの持ち方が事故防止において重要な二点が非常に頭に残りました。
- ・大多数の事故は道迷いから起きているとのこと、しっかりと読図の必要性をあらためて感じました。
- ・事故がおこる時には必ず、要因があることが自分の経験も含めてよく解りました。要因を1つひとつ消していくような心がけが必要に感じました。
- ・ご自身の事故のお話から事故に対する考え方、事故の原因等がよく理解出来たとともに事故の考えを改めることになった。
- ・事故を一面でしか捉えてなかったのですが、いくつもの面があることを考えなければいけないと思いました。

新特別基金(=遭対基金)について

- ・寄付金の払い込み方法が理解できた。
- ・事故を起こさないための基金ですね。
- ・新特別基金の件はやはりまたの機会があれば、お話を聞かせて頂きたい。
- ・全く知識がなかったので、勉強になりました。
- ・事故は出来るだけ起さないようにすること。起きたらすぐ報告。それも原因等がよくわかるように報告することが必要と思いました。

中村さんへのご支援ありがとうございました。

5月19日の「女性のつどい」で、石巻で東日本大震災で被災された、おやこ山の会の会員・中村公仁子さんへの支援を呼びかけましたが、皆さんからのカンパは50,000円になりました。このお金は、おやこ山の会の飯田さんが、近日中に中村さんの様子を見に石巻まで行かれるとのことですので、飯田さんをお願いすることになっています。

皆さん本当にありがとうございました。
山仲間の支援として届けたいと思います。

(アリス山の会 森康子)

教育部

6/3 第2回教育担当者会議を開催しました

【出席】板津(HFMC)蜂須賀(若駒)島(じねんじょ)鶴野(ASC)高井(春日井峠の会)藤村(東三河山ぽ会)池田(スルジェ)加藤(あつた)長尾(みどり)馬嶋(あつた) 9山岳会10名

各会の担当者の紹介の後、各会の教育部の活動計画について、各会が今期教育活動計画書の内容とすでに進んでいる教育活動について報告してもらいました。

各会の教育担当者に各会の計画書と参考資料を配布することで教育活動に役立ててもらおうようにしていきます。会議で出された意見は以下のとおり。

- ・山岳会の存在意義・各山岳会の特色を認識して活動をしていくことも必要。
- ・山登りの技術・技能・思想等を継承していく。使える技術・考える技術、山岳会の会員を意識した山行を実践していくことも必要である
- ・会の活性化のために、連盟HPの刷新により活動を報告して行くようにします。
(ブログ掲載)また、メーリングリストを活用をして、行事参加の呼びかけをする。などの意見が活発に出ました。
- ・ある会では、会員の半数が、3年未満の会員で構成されるなど、新入会者の教育問題が発生している。新入会者の中の経験者、初心者の温度差をどのように埋め解消していくか

遭対部

無雪期救助訓練(机上講座)を行いました

6月13日(月)19:30から県連事務所で、13山岳会71名が参加して行われました。講師は洞井孝雄県連会長。

救助訓練のねらいとして、①まず、事故発生時の手順を県連の「遭対規程」にもとづき説明され、阪神淡路大震災以来、各都道府県に「防災ヘリ」が配置され現地で早期に捜索・救助活動が進められることが多いので、かつてのように、こちらから救助隊を編成して現地に向かうような機会は非常に少なくなっている、たいていの場合事故が起きれば、当該パーティのメンバーが速やかに処置し、搬出・搬送を行うのがベストです。そのためにベーシックな個人装備としてのスリングやカラビナ、共同装備としての細引きなどを使って、事故者にどう対処するかを、会員みんなが体験的に学ぶことが重要であることが強調されました。

次に、ねらい②として、「メンバー全員が知識・技術だけでなく、状況を共有すること。メンバー個々がリーダーの指示に従うとともに、自分に何が求められているかを把握し、率先して動くこと。搬出・搬送を通して、事故を起こすことの大変さ、バカバカしさを実感すること、そこから事故を起こしてはならないという意識を、醸成すること」が強調さ

れました。



最後に、ザイル担架の作り方の指導があり、受講生らもそれぞれ数組に分かれて実際にザイル担架づくりをしました。

【参加者】あつた(11)、おやこ(1)、くらら(8)、ASC(10)、半田F(10)、春日井峠(1)、じねんじょ(6)、ありんこ(3)、同志会(6)、ふわく(9)、みどり(2)、東三河(2)、若駒(2)の計71名。

第2回遭対担当者会議を開きました。

6月17日(金)19:30から県連事務所で遭対担当者会議が開かれ、15山岳会23名が出席しました。5件の事故報告と清掃山行中に発生した会員外参加者の事故2件と平山明神山における遭難救助活動について報告がありました。また、直近の課題について取り組み強化を申し合わせました。

【出席者】望月・浦・田中(ふわく)、洞井(半田F)、尾崎(じねんじょ)、佐藤(あつた)、朝日・西尾(くらら)、森島・高士(ありんこ)、山口(同志会)、足立・岸部(若駒)、原田・宮下(みどり)、加藤(ちんぐるま)、牛田(低い山)、河合・森(東三河)、井土(東海)、村田(スルジェ)、大石(アリス)、佐村(ASC)、以上15山岳会23名。

1. 事故報告(1件はずでに報告済み。ここでは4件を報告します)

No.2 クライミングで飛び降りた際、骨折

【発生日時】2011年4月2日(土)14:50頃 【山域・山名】豊田市南山ゲレンデ女岩

【事故者】女性 58歳 【負傷の程度】左足関節内果骨折、全治2か月

【概要】通称階段とよばれているルートを中間テラスまで登り、階段に設けられた最初の

支点にロープをかけ、2ピン目の手前の左岩壁上のホールドを探すのに手間取り、態勢を整えるつもりで、1ピン目に戻る途中、階段とテラスの段差が30cm位なので飛び降りた。その時左足のかかと辺りに鈍痛を感じた。いったん立ち止まったもののそのまま後ろへ2～3歩引かれたところで止まった。左足に加重をかけると痛み登れる状況ではないので、ロアーダウンで降りた。翌日になり痛みや腫れが引かないので、かかりつけの外科医で診察した結果、上記のように診断された。

▲指摘・反省など

- ・クライミングシューズについての検討も必要。

No.3 下山中、ぬれ落ち葉に隠れた木の根で滑り骨折

【発生日時】2011年4月25日(月)11:40頃 【山域・山名】奥三河・平山明神山

【事故者】女性、65歳

【負傷の程度】左足首骨折、全治1か月

【概要】緩やかな下り登山道を歩行中、雨でぬれた落ち葉に右足を置いたところ、その下にあった木の根に乗って滑り転倒。左足の先にくぼみがあり、そこにはまった。鈍い音を聞いたような気がしたが、ゆっくり立ち上がると少し違和感があったが痛みはなく歩行可能であった。捻挫と思い湿布をして自力下山。帰宅後、骨折と診断された。ギブス固定。

No.4 下山時、石に乗ってスリップし足を骨折

【発生日時】2011年5月15日(日)11:30頃 【山域・山名】南アルプス・朝日岳

【事故者】女性、60歳

【負傷の程度】左足外側踝上部の骨折

【概要】当日5時発、朝日岳登頂後下山中、合地ボツ手前で右足が滑り易い石に乗りスリップ。左足はその位置に残った状態で尻餅を突く。この時左足を強く捻ったものと思われる。湿布をし自力下山。帰宅後病院でレントゲン検査の結果骨折と判明。

▲指摘・反省など

- ・事故者はS L。予定されたS Lが休んだので、急拠S Lに就いた。

No.5 登山中に脱臼

【発生日時】2011年5月22日(日)8:40頃 【山域・山名】鈴鹿・釈迦が岳

【事故者】男性、64歳

【負傷の程度】左肩脱臼

【概要】朝明より庵座の滝コースを登っている途中、松尾尾根の頭の手前の急登で木の根のようなところへ左手をかけて登ろうとした時発生した。少し広い所でザックを下ろし、松尾尾根の頭へ移動後、湿布・テーピングを施し肩を吊る処置。前後をスリングで確保しゆっくり下山。下山後四日市の病院で処置。

▲指摘・反省など

- ・過去脱臼2回、くせになっている。
- ・リーダー・会に対して、持病・既往歴の申告が必要。

その他、半田Fから、清掃登山中における一般参加者の2件の事故(足の痙攣、転倒)の報告がありました。

2. 東三河山ぼ会から、平山明神山における遭難救助活動について報告がありました。

【発生日時】 2011年4月24日(日)13:10ころ

【場所】 平山明神山から大鈴山方面へ向かう途中。岩古谷山への分岐手前の岩場。

【事故者】 男性、47歳、名古屋市在住。

【負傷の程度】 顔中血まみれになってしゃがみこんでいた、意識あり。額は腫れ、両目の周囲は黒ずんでいた。左下腿の腫れ、出血。歯が何本か折れている。

【概要】 先頭の呼びかけに、パーティ全員駆け寄る。事故者から事情聴取。会員の看護師中心に応急手当。消防・警察へ連絡。事故者の自宅へ連絡。救出法を協議。事故者介護。ヘリへの合図、愛知県防災ヘリコプターで搬出。別の場所に待機しているドクターヘリに移動後、病院に収容される。

【教訓】 ベーシック装備、救助訓練の必要性。単独行の危険性。危急時のリーダーの選定。救急法の習得。

3. 直近の課題についての取り組み強化の申し合わせ

遭対部の今後の課題と日程

① 確保技術講習会

机上：6月20日(月)19:30～県連事務所

実技：6月26日(日)滋賀県比良山岳センター

② 救急法講習会

6月25日(土)10:00～16:00 県連事務所

③ 夏山合宿遭対連絡会議

7月8日(金)19:30～県連事務所、計画書各30部持参のこと

④ 夏山合宿遭対報告会議

8月26日(金)19:30～県連事務所、報告書各30部持参のこと

⑤ 第3回遭対担当者会議

9月9日(金)19:30～県連事務所 以上。

無雪期救助訓練実技を行いました。

実技は、6月19日(日)御在所岳裏道・四の渡し周辺で行いました。

【参加者】 あつた(10)、春日井峠(2)、じねんじょ(5)、東海(1)、ASC(7)、ありんこ(3)、同志会(2)、半田F(9)、東三河(2)、ふわく(6)、くらら(7)、若駒(1)計55名。

前半、4班に分かれて、①支点作り、②滑落した事故者までの下降、③事故者の登山道までの引き上げ、④自己パーティでの事故者搬送、についての訓練を行いました。

後半は、「登山道から、落ちた」という想定で、事故者を引き上げ、ザイル担架をつくってヘリの来るところまで搬送する訓練を行いました。幸い雨は降りませんが、増水した谷川に架かった橋を二つ渡り、通常であれば15～20分で下れるルートを、1時間半もかけて下るといふ膨大な労力と時間を目の当たりにし、参加者は「事故を起こすことの大変さ、バカバカしさを実感すること」が出来たようです。

スケジュール

6月			7月			8月		
1	水		1	金	女性をつどい4	1	月	
2	木	清掃登山実行委員会5	2	土	登山学校 実技C6	2	火	
3	金	教育担当2	3	日		3	水	
4	土		4	月	登山学校 理論11	4	木	
5	日	鈴鹿清掃登山	5	火		5	金	
6	月	登山学校 理論9	6	水		6	土	
7	火		7	木	自然保護担当2	7	日	
8	水		8	金	夏山合宿遭対連絡会議	8	月	
9	木	清掃登山実行委員会6	9	土		9	火	
10	金	理事会7	10	日		10	水	
11	土	一般向け登山講座 実技2	11	月		11	木	自然保護担当3
12	日	登山学校 実技C5	12	火		12	金	
13	月	無雪期救助訓練 机上	13	水		13	土	
14	火	一般向け登山講座 理論6	14	木		14	日	
15	水		15	金		15	月	
16	木	女性をつどい3	16	土		16	火	
17	金	遭対担当2	17	日		17	水	
18	土		18	月		18	木	
19	日	無雪期救助訓練 実技	19	火		19	金	理事会10
20	月	確保技術講習会 机上	20	水		20	土	
21	火		21	木	組織担当4	21	日	登山学校 実技C7
22	水		22	金	理事会9	22	月	
23	木		23	土		23	火	
24	金	理事会8	24	日		24	水	
25	土	救急法講習会	25	月		25	木	
26	日	確保技術講習会 実技	26	火		26	金	夏山合宿遭対報告会議
27	月	登山学校 理論10	27	水		27	土	
28	火		28	木		28	日	
29	水		29	金		29	月	
30	木		30	土	ライチョウの観察 と学習の集い	30	火	
			31	日		31	水	

労山愛知締切:7月15日

ご意見・ご要望・投稿などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

<http://aichirousan.web.fc2.com/> e-mail:aichirousan@gmail.com